

加原遺跡

遺構写真 写真図版 01 ~ 12
遺物写真 写真図版 13 ~ 18
胎土分析顕微鏡写真 19 ~ 28



加原遺跡西側の丘陵上（石座神社遺跡）側からみた08B区第1面の全景。南北道路奥の一段低いフェンス内が08A区（調査終了）で、周辺の水田は連吾川の氾濫原である。この付近では連吾川は小さく目立たず、すぐ対岸の段丘が迫っている。この谷を挟んだ景観がまさに長篠・設楽原合戦における織田・徳川方北部の陣からの視界である。



08A 区、検 1 面全景。北から。連吾川の氾濫にかかる粗粒砂・礫層の攪乱を除去した状態。写真右の道路を挟んだ一段高位の耕作地が08B区である。洪水によって黒色土層の大半も流出していたが、調査区東端付近でわずかに残存していた。調査ではこれをベルト状に遺している。



同、全景。北東から。中央の畦畔状高まりの両脇は粗粒砂が埋土となる。土層断面では溝状の落ち込みになっていた（下）。



同、全景。東から。黒色土層の残存部。手前は耕地整理の切り出しで滅失していた。奥の草地が調査前の08B区。



08A区、調査区西壁の土層断面（部分）。南東から。右側の高まりが畦畔状高まりの断面、手前の水性堆積層は畦畔状遺構の後である。



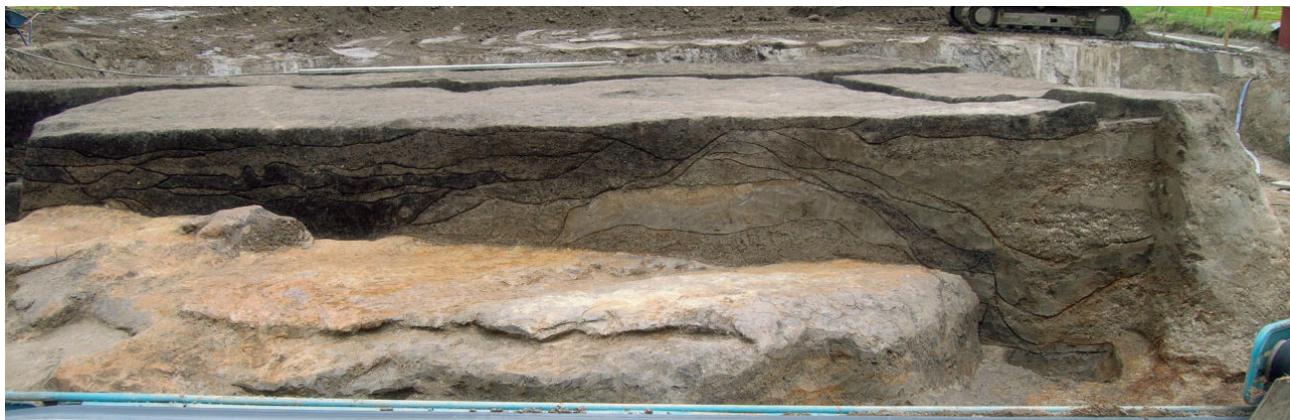
同、畦畔状高まり部分、東から。これ自体も粗粒砂層の上にある。



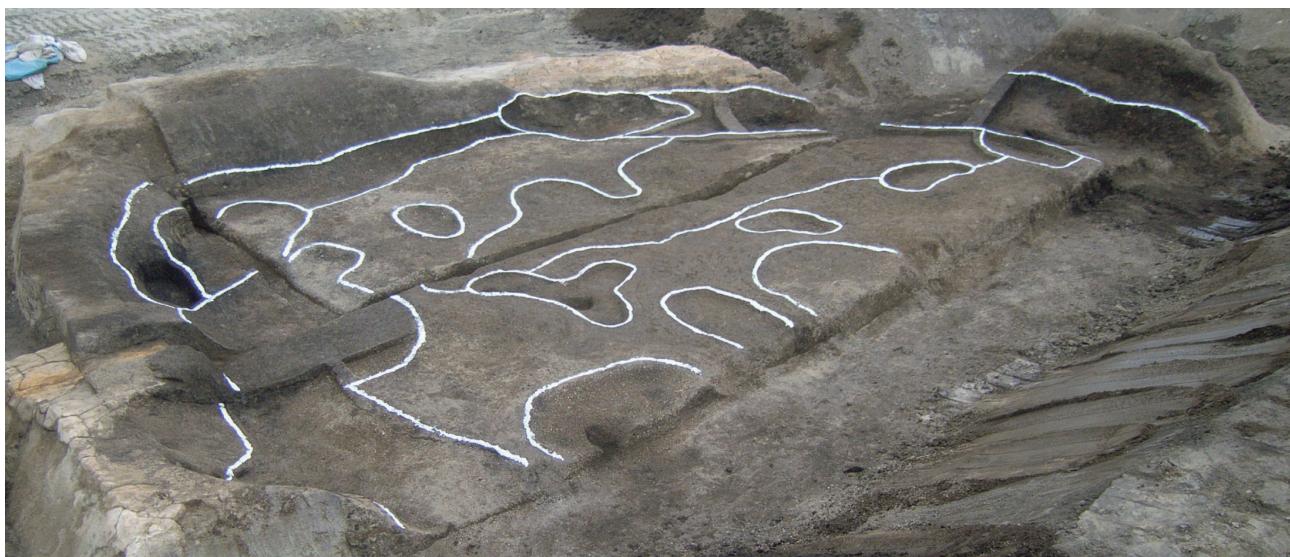
08A 区調査区南壁における土層断面。東からみる。粗粒砂層の上に黒色土層があり、それに西端の溝が切り込んでいる。



08A 区調査区北壁における土層断面。畦状に残った粗粒砂層の東側に溝状堆積がみえる。



08A 区、黒色土層残存部の土層断面。西からみる。中央に、前頁の畦畔状高まりと似た断面構造の高まりとその南側に砂礫の混じった溝状の堆積がみえる。一方北側は黒色土と灰褐色の粗粒砂が交互に堆積している。当該層からは頗著な遺物が出土せず、これらの上面で検出された遺構（下写真）で古墳時代初頭の土器が出土していることから、それ以前の可能性もある。



08A 区、黒色土層残存部にて検 2 面遺構完掘状況。南東から。黒色土残存部の端部は土手状に立ち上がり、それに伴うような形状の周溝がある。周溝の範囲内では土坑が検出され、柱列の可能性が想定された。当該遺構群からは古墳時代初頭の土器のみが出土している。しかしながら、遺構の形状から、耕地整理前の小区画の耕作地である可能性も考えられる。

写真図版

3



08区、調査区南壁における土層断面。(左上)調査区南壁全景。北東から。(右上)同断面西端。西から。下層の灰白色粘土は山側の基盤層。(左下) 同断面西端。東から。黒色土層の上位は耕作土層、さらに上は現代の造成層に覆われている。(右下) 同断面東端。北西から。黒色土層などが平行に堆積しているが、手前(断面中央部)に向かって若干の傾斜があり、南側へ開く谷地形であることがわかる。



(左) 08B区、調査区北壁における土層断面。南西からみる。正面の森の下を連吾川が南流する。(右) 北壁土層断面西端の状況。黄褐色の粘土は基盤層である。その上位に黒色土層の堆積があり、それ自体も分層される。



(左) 08B区トレーンチ01中央ベルト土層断面全景。南東からみる。当該トレーンチとベルトは谷地形(084SX・318SX)の横断面を記録するために設定した。

(右) 同断面西端。南東からみる。奥の明黄褐色粘土が基盤層。黒色土層とその上位の砂層は谷地形の自然堆積。さらに上位は埋め立てによる造成層。



08B 区、トレンチ 01 南北ベルト土層断面。（左）谷地形造成層上面（084SX）検出時。（右）同造成層（318SX）完掘時。ともに南西からみる。



写真図版
5



08B 区、検 1 面完掘状況と背後の石座神社遺跡。東から。同遺構面は黄褐色粘土で造成された平坦面で、黄褐色粘土中からは近世以降の染付が出土しており、比較的近事のことと考えられる。石座神社遺跡と加原遺跡の間には段丘崖の急斜面となっている。その縁では 8 世紀代の堅穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されている。



08B 区堅穴状遺構 113SI・114SI 検出状況。南から。113SI の埋土からは山茶碗の底部がみえている。これらの遺構は谷地形 084SX のやや低位にあり、同地形の埋め立て後に構築されたもの。

(上) 08B 区、調査区西半部の検 2 面完掘状況。東から。谷地形の低位にも遺構が展開している。(下) 同調査区北半部の状況。南東から。



08B 区、トレンチ 05 土層断面。南東から。左端付近の落ち込みが溝 005SD でその下位に谷地形 318SX の北端である 148SX が薄く検出された。



08B 区、検 2 面北部の遺構検出状況。北西から。黒色土層に対し黄褐色埋土の溝 (004SD など) や堅穴状遺構がみられる。



08B 区、検 2 面北東部の遺構検出状況。南から。中央に竪穴状遺構 037SI・038SI やその西側に 056SI がある。



08B 区、検 2 面東部の遺構検出状況。北から。右端の竪穴状遺構 039SI 等の脇では下面（検 3 面）の溝 153SD が見える。



同区、竪穴建物 303SI・347SI の完掘状況。北西から。主柱穴と想定されるピットと、床面下の幅広周溝状掘り方の範囲を完掘した状態である。当該遺構は加原遺跡で唯一古墳時代初頭に遡るものであるが、埋没した遺構を平安時代中期に再利用している。



08B 区、検 2 面竪穴状遺構 037SI・038SI の完掘状況。東から。浅い皿状の遺構で、内部に柱穴などの痕跡はみられない。



同区、検 2 面の竪穴建物 125SI 北壁の造り付け竈の検出状況。北西から。煙道相当部分には焼土や破碎された竈片が集中的に混じる。



(上)08B 区、検 2 面竪穴状遺構 059SI 土層断面。南西から。右半部で、同遺構下の 147SI の土層がみえる。

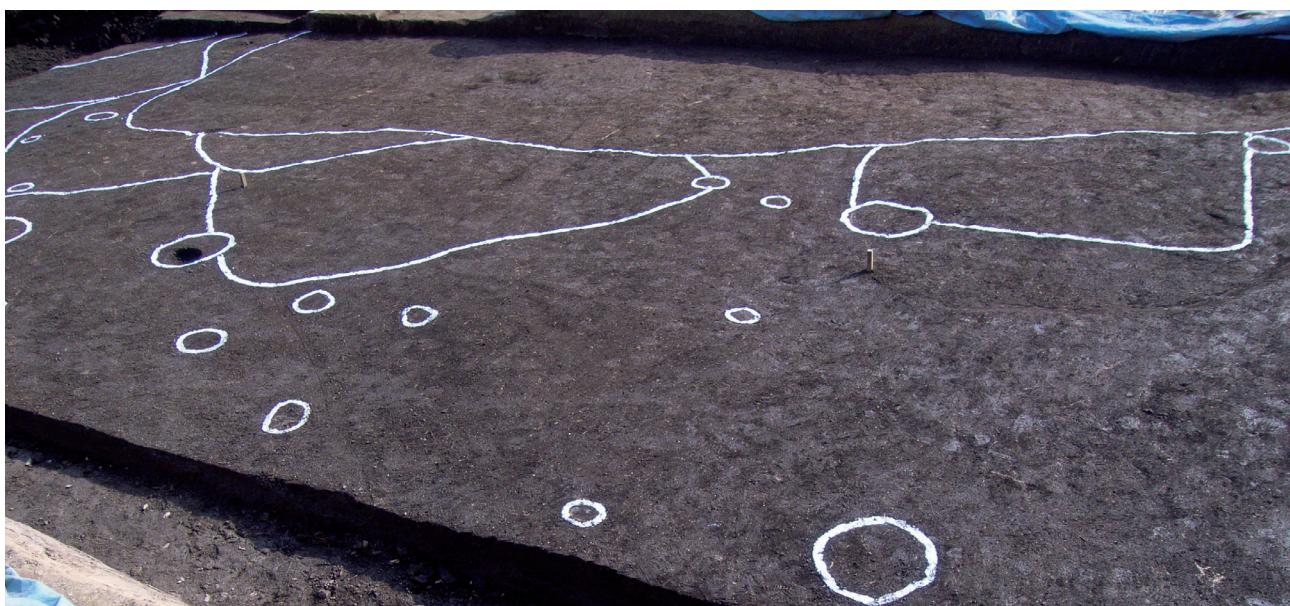
(左)08B 区、検 2 面竪穴状遺構 057SI 完掘状況。北東から。この遺構の下位で多数の竪穴状遺構が重複していた。



(下) 08B 区、検 3 面遺構完掘状況。北から。調査地点ならびにその周辺は近年の耕地整理による盛土に埋没しているが、谷地形 318SX の南側は木立ちのある段丘裾が南東方向へ延びており、これが同地形の反映とみられる。



(上) 08B 区、検 3 面遺構完掘状況。西から。手前の黄褐色の部分は削平された基盤層であるため、元は斜面地がったと思われる。したがって集落の中心は写真のやや北側になるとみられる。



(上) 08B 区、検 3 面北西部の遺構検出状況。北西から。谷地形 318SX の土層が竪穴状遺構群を覆っている。318SX の端部は直線的な部分もあり、削平行行為によるものと考えられる。



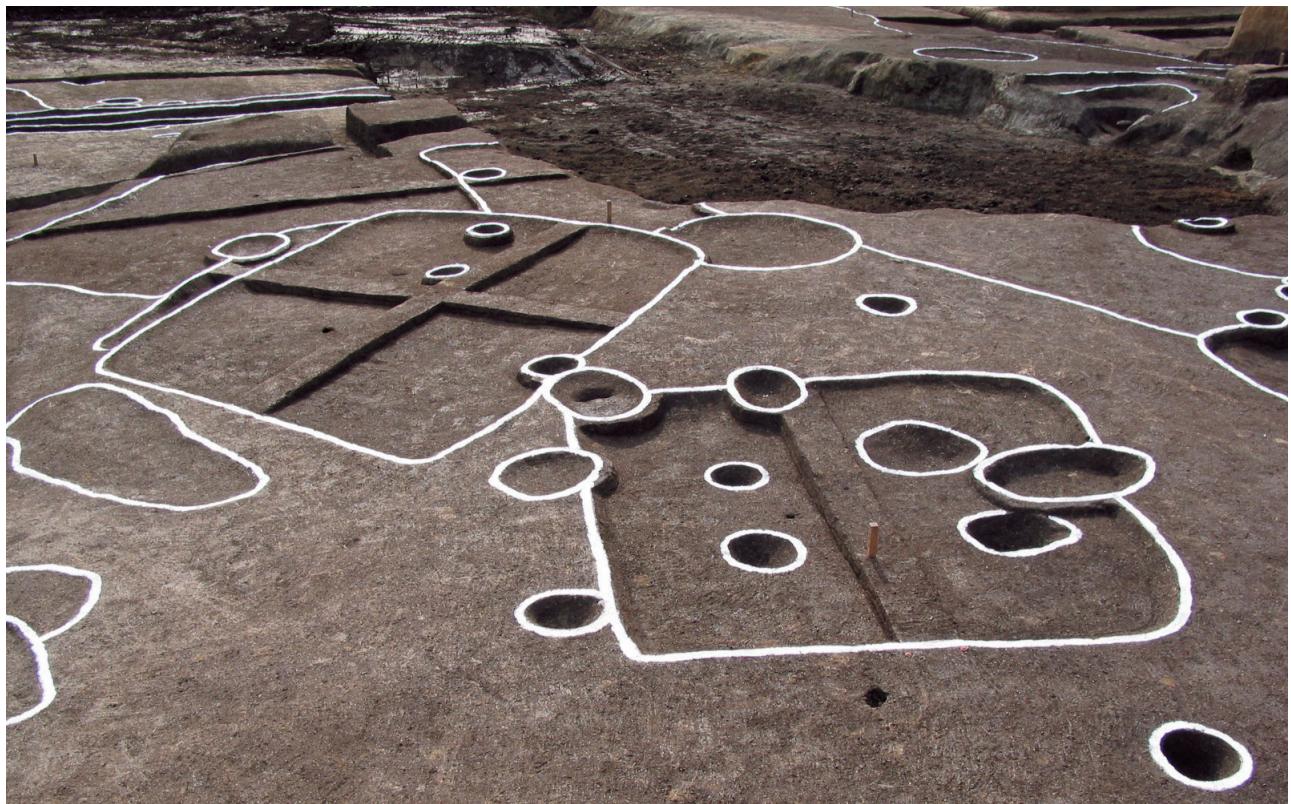
(左) 同検出状況を南東側からみる。谷地形の堆積は地山由来の黄褐色粘土ブロックが多く混じっており、明るい色調となる。ここからさらに上位の斜面までを切り崩して出た土を流し込んだのであろう。



08B区、検3面北部の遺構検出状況。北西から。検2面に比べて竪穴状遺構の数は少ないが、比較的明瞭である。中央の大きな遺構が竪穴建物303SI。その奥に小型の347SIが並列している。



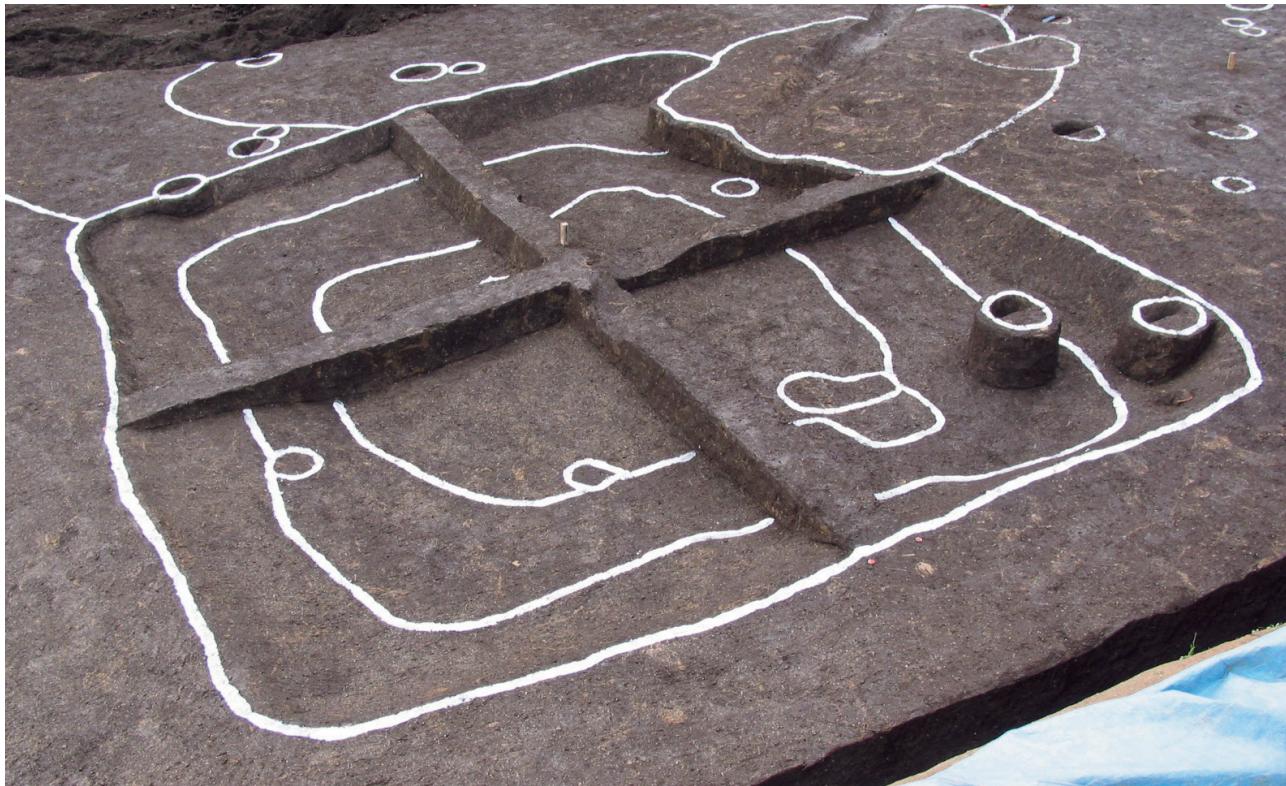
同区、竪穴建物303SI・347SIの完掘状況。北西から。主柱穴と想定されるピットと、床面下の幅広周溝状掘り方の範囲を完掘した状態である。当該遺構は加原遺跡で唯一古墳時代初頭に遡るものであるが、埋没した遺構を平安時代中期に再利用している。



08B 区、検 3 面遺構完掘状況。北から。手前は竪穴状遺構 347SI、関連するピットが 4 基みられる。その奥は 276SI である。



08B 区、検 3 面遺構完掘状況。北東から。347SI の西隣に 303SI、そして谷地形 318SX がある。東西の土層ベルトがちょうど元の自然地形の端部に相当する。



08B 区、検 3 面 303SI の床面検出状況。北東から。埋土の状況を確認するための土層ベルトを十字に設定している。床面にみえる周溝状の遺構は竪穴建物開削時の掘り方である。それを埋めた状態で床面となる。本来この掘り方と壁面は平行関係にあるはずなのだが、当該遺構では向きが異なっていた。その後土層の検討を行ったところ、2 時期の竪穴建物の重複であったことが判明した。2 時期目（303Slb）は平安時代中期である。



08B 区、同遺構土層断面の状況。北東から。掘り方も掘削した状態である。当初の床面に対応する分層線の他に再掘削後に黒色度が強い埋土が堆積しているのがみえる。これが再利用に伴うもので、同層からは 10 世紀代の灰釉陶器が出土している。



08B 区、検 3 面 256 ~ 258SD の完掘状況。西から。同一地点で幾度も掘り返されたもので、不整形な状況や方位から耕作地にかかるものと考えられる。



08B 区、検 3 面 256 ~ 258SD の土層断面。調査区東壁にて西から。当該遺構は出土遺物は出土遺物は中世までの遺物に限定されるが、地表面直下に位置し、比較的新しい時期のものであろう。



(左上) 08B 区 376SU 出土状況。南から。下方に縄文晩期の浅鉢がみえる。

(上) 同、大型壺の出土状況。土層ベルト除去後の状況。

(左下) 同、土層断面の拡大。南から。土器片は多数みられるが大型壺と手前の小型壺の 2 個体分でしかない。土器は上層（やや明るい色黒褐色土層）に含まれる。

(下) 同、376SU 下方の縄文土器出土状況。南から。出土位置は近いが、この土器を包含する土層は下層（黒色土層）である。



写真図版

13



写真図版

14



写真図版

15







